

## \*\*\* 今日の健康 (1月) \*\*\*

### 伝染性紅斑 (りんご病)

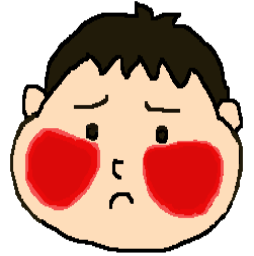
伝染性紅斑は、ヒトパルボウイルス B19 の飛沫感染によって引き起こされ、爆発的流行とはいえませんが、明らかに特定の集団に流行し小流行の型をとることが多くみうけられます。

感染症サーベイランスによると 1980-81 年、1986-87 年、1991-92 年、1996-97 年、2001-02 に大きな流行が見られ、概ね 5 年の周期性が認められていますが、現実としては毎年季節に関わりなく小規模な流行があります。

好発年齢は 5~14 才、ピークは 5~9 才に多く、乳幼児、成人が罹患することもあります。潜伏期は 7~25 日です。

感染後約 7~12 日目頃までウイルスを排泄しているため、この間にヒトからヒトに感染していくと考えられています。

特有の発疹は感染後 17~18 日目頃なので、少なくとも発疹が出てきた頃には他人に感染させる可能性はありません。学校保健上の取り扱いも登校登園停止にはなっていません。



#### <主な症状>

発疹の出現する 1 週間前頃から軽い咳、鼻汁、咽頭痛などのかぜ症状が出現することがあります。希に関節痛、頭痛、腹痛、リンパ節腫脹を伴います。発熱は無熱のことが多いですが、約 20% に 37.5℃ 前後の微熱を認めます。希に 39~40℃ の高熱を認めます。成人に発病した場合は、風疹との区別が困難で血液検査を必要とすることもあります。予後は通常、良好です。

#### <発疹 (1~3 期に分けられます。) >

第 1 期：顔面とくに頬部に境界明瞭な紅斑が突然出現し、鼻背で融合して蝶型の紅斑になります。(リンゴのように真っ赤な頬になる。) 口唇周囲にはみられません。1~4 日で消退します。

第 2 期：顔面より 1~2 日遅れて、四肢に対側性に小紅斑が出現し、環状又は融合して地図状またはレース状になります。

第 3 期：消退後さらに日光照射、寒冷、情緒ストレス、摩擦、外傷などによって再度出現することがあります。

#### <合併症>

パルボウイルス B19 は、伝染性紅斑の病原体ですが、その他にも幾つかの病気に関与している事実が明らかになってきています。きわめて希ですが、成人女性に 1~3 週間持続する関節炎、血管性紫斑病、脳炎。またある種の貧血の患者さんに感染すると一時的に造血が障害され、強度の貧血を引き起こします。また妊婦に感染した場合、全妊娠期間、特に妊娠前半期に、感染性溶血による胎児水腫を引き起こし、胎児死亡流産の原因にもなることがあります。催奇形性の報告は有りません。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861

天文台通り多摩信用金庫のななめ裏